

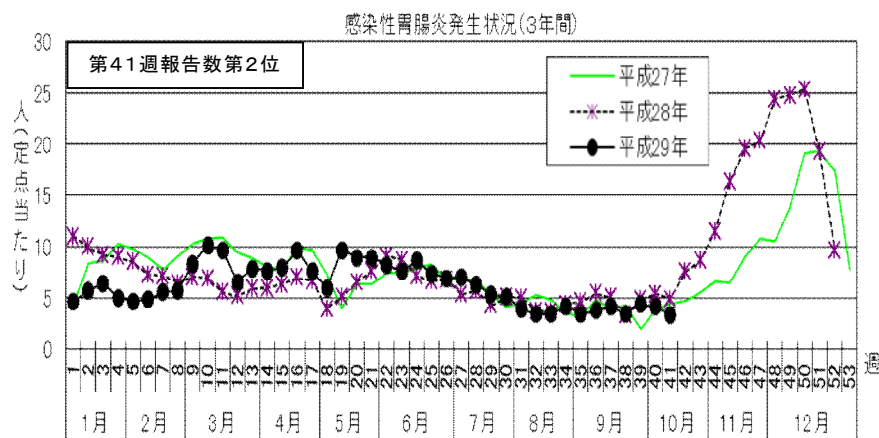
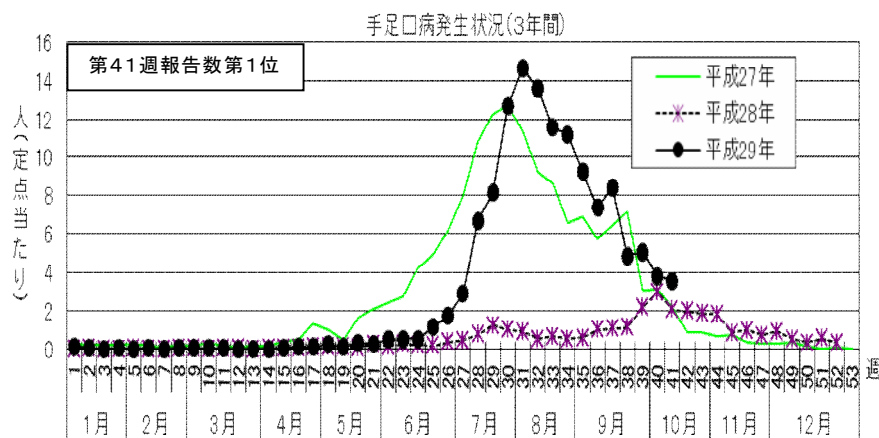
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年10月9日（月）～平成29年10月15日（日）〔平成29年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は3.57人と前週（3.81人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.38人と前週（4.14人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.78人と前週（1.95人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

★肺炎球菌 ニューモくん★



ワクチン接種で防ごう！～侵襲性肺炎球菌感染症～

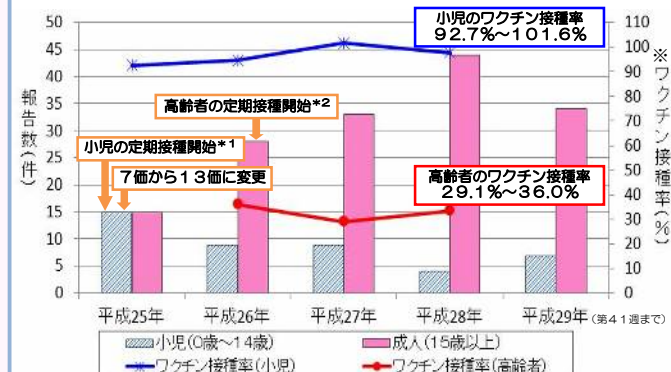
肺炎球菌感染症は、肺炎球菌という細菌によって引き起こされますが、肺炎球菌は肺炎だけでなく髄膜炎や敗血症といった重篤な感染症（侵襲性肺炎球菌感染症）を起こすことがあります。

小児では平成25年4月に肺炎球菌ワクチンが定期接種化され、川崎市でもワクチン接種率の増加とともに報告数は減少しました。成人では65歳以上の高齢者を対象に平成26年10月1日から定期接種が開始されましたが、市内における接種率は30%程度で、ワクチン未接種の高齢者を中心に報告数は増加しています。

侵襲性肺炎球菌感染症とは？

- **感染経路**
患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染
 - **症状等**
発熱、咳、息切れなどを初期症状とした菌血症（無菌であるはずの血流中に細菌が存在する状態）を伴う肺炎
※なお、小児では発熱のみで肺炎を伴わないこともあります。
- ★治療方法は抗菌薬が有効ですが、ワクチン接種で予防することができます。
- ★小児と高齢者ではワクチンの種類が異なりますので、御注意ください。

川崎市における侵襲性肺炎球菌感染症の発生状況
 —平成25年から平成29年第41週まで—



*1 4月～：7価肺炎球菌結合型ワクチン、11月～：13価肺炎球菌結合型ワクチン
 *2 10月～：23価肺炎球菌多糖体ワクチン
 ※小児の肺炎球菌ワクチンは4回目のワクチン接種率